

サンデーパー ククカラフト

工場の入り口に立つと、その奥に完成品とおぼしきギターが下り下げられている。遠目で見たこの時の印象は、ほんの少しだけデザインに特徴のある、ごく普通のギター。ところが、近づいて手に取って見ると、材質が異なることに気が付いた。

「ギターは竹製と言え、一般にマホガニーやスプルース、ローズウツ

プロのギタリストだったという経歴を持つ。

「およそ三十年ほど前から「いずれは自分でギター制作を」と考えていたが、材料に竹を選んだのは「森林保全と竹の有効利用もテーマのひとつ」だからだ。

とはいえ、竹で制作するのは容易ではない。そこで、まずは普通のギ

音色はまさに「日本」

ドなどの木材が用いられる。ところが、目の前にあるそのギターは、国産の「竹」でできていたのである。

「近年、木材は良質なものが入手しにくくなってきました。そこで、生育が早く、身近で入手しやすい竹でギターを作ってみると、常々考えていたんです」

こう話すのは、愛知県稲沢市在住の中村正夫さん(五七)。現在は市内でコインランドリー店を営

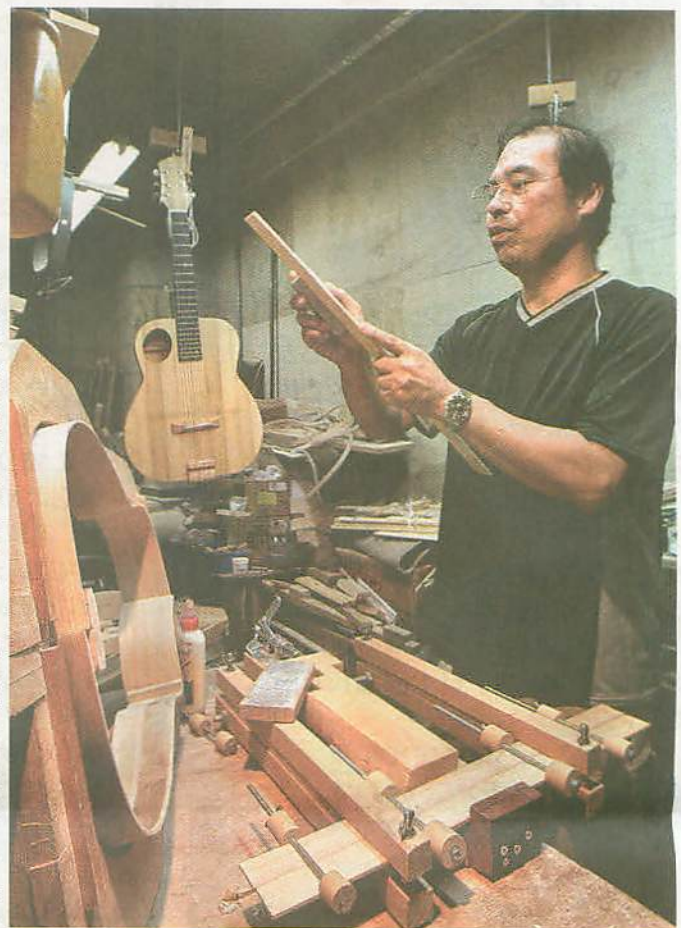
ター作りに挑戦するも、技術を習得するまで約十年間を要した。その後、いざ竹による制作を試みると、いくつもの難関が待ち受けていた。いつ。

「竹の場合、普通の木のように簡単に板が手に入るわけではありませんが、ですから、板を作ることから始めなければなりません」

「世界中のギター音楽を聴き、ギターの歴史が分かるようになると、ジャズやポピュラー音楽には日本人のルーツが見えなかったんです」

竹製ギター

愛知県稲沢市 中村 正夫さん(57歳)



竹製ギター制作は竹の板を作ることから始まる。工具もお手製である＝愛知県稲沢市の工房で



柔らかで張りのある独特な音を奏でる竹製ギター

「変わって音のギター」にすぎなかつたよつだ。

「実際に間近で演奏を聴かせていたけど、確かに普通のアコースティックギターともクラシックギターとも異なる。スチール弦でありながらナイロン弦のように柔らかく、かつ、ナイロン弦にはない張りのある音色が出るのだ。」

「この音は沖繩や奄美の人に好まれるよつです」

中村さんが完成させた竹製ギターが音楽界で認められるのは、外国からの逆輸入、あるいは沖繩や奄美からの発信がきっかけになるのではないか。その日が待ち遠しく思える今日この頃である。

(浦 壮一郎、写真も)

使用する竹は三重県産の孟宗竹。「たまたま近所に竹材店があったので、そこに注文しています」と中村さん。11月から1月にかけて切り出された竹を入手し、半年以上乾燥させた後に使用しているという。

また、竹の音色を出すため合成塗料を使わないのが中村流。仕上げに漆を使用することで、音色を損なわずに制作することができる。

そもそも竹を材料に選んだのは、「森林の荒

廃と竹林の手入れ不足が深刻化しているため」と中村さんは言う。竹を積極的に利用する地盤が整えば、「森林伐採の抑制につながるはず」との信念のもと、竹製ギターの普及を目指している。

なお、中村さんの竹製ギターは11月3-6日にパシフィコ横浜で開催される「2005楽器フェア」に出展予定だ。

【連絡先】(ホームページ) <http://www.geocities.jp/bgcdj201/index.html>

メモ